

**SS 研教育環境分科会 2012 年度第 2 回会合**
**「学生を ICT でどう支援していくか - ライフログを活用した非常時を含む学生支援 -」**

～ SS 研会員、IS 研会員、CS 研会員機関の方ならどなたでもご参加いただけます ～

**■ 日時：2012 年 10 月 24 日(水) 13:30～20:30 (懇談会含む)**
**■ 場所：ANA クラウンプラザホテル神戸 [神戸市中央区北野町 1 丁目 TEL:078-291-1121]**
**■ プログラム**(予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

-敬称略-

13:00～	<b>受付</b>
13:30～13:40	開会あいさつ
13:40～14:50 講演 60 分 Q&A 10 分	<b>[1] 高等教育機関における一斉同報通知・確認サービスとしての安否確認</b> <b>梶田将司 (京都大学)</b> <p>本報告では、大学のような大規模かつ多様な組織における安否確認システムを一種の「一斉同報通知・確認サービス」としてとらえ、通常時から緊急時にまたがる各種アプリケーションにおけるメッセージ通知・確認サービスを統合的に扱うための「一斉同報通知・確認サービスフレームワーク」について述べる。</p> <p>東日本大震災以降、各大学では、大規模災害における人的被害の把握や教育研究活動再開の意志決定を行うための基礎データを収集するために安否確認システムの導入を急速に進めつつある。しかしながら、安否確認は、年次進行で大幅に入れ替わっていく学生や数年から十年単位で異動が生じる教職員など、人の情報に関する適切なマネジメント(アイデンティティマネジメント)が前提であるとともに、本人に到達可能なメールアドレスの保守等、構成員に必要な情報を届けたり必要な情報を収集したりするための適切な手段の確保(リレーションマネジメント)も重要となる。また、安否確認システムでは収集できなかった場合の補助手段や、その結果をどうマーージするか等、安否確認は安否確認システムの導入だけで解決する簡単な課題ではない。そこで、本報告では、報告者の名古屋大学における実践や大学 ICT 推進協議会における安否確認システムの共同開発・共同運用に関する活動を交えながら、高等教育機関における一斉同報通知・確認サービスとしての安否確認を考える。</p>
14:50～16:00 講演 60 分 Q&A 10 分	<b>[2] ライフログの教育活用における海外動向 -LAK12 報告 -</b> <b>安武公一 (広島大学)</b> <p>「ビッグ・データ」の時代と称されるようになった今日、学習・教育研究の分野では日々システムに蓄積される膨大な学習履歴情報のログ・データの何をどう分析し、どう学習・教育環境の改善に利用すればいいのか、まだよく分かっていない。また、スモール・ワールドやスケール・フリー・ネットワークなどのキーワードが広まる契機となった新しいネットワーク科学の知見をどう学習・教育研究に活用すればいいのか、その試みは端緒についたばかりである。</p> <p>こうした時代の変化と要請を受けて欧米では、膨大な学習履歴ログ・データの活用と新しい科学的知見の開拓をミッションとする Learning Analytics と称される新しい研究テーマ・領域に注目が集まってきた。International Conference on Learning Analytics and Knowledge (LAK) は、学習科学、教育学、情報科学、複雑ネットワーク科学、コンピュータ・サイエンスなどの関連諸領域を横断する、Learning Analytics のための新しい国際会議である。</p> <p>このトークでは、2012 年 4 月、カナダはヴァンクーバーで開催された The 2nd LAK 2012 の概要を紹介する。あわせて、「ビッグ・データ」の時代、特にわが国の学習・教育環境を改善するためにどういう研究・実践戦略が求められているのか、そしてその可能性は何か等についても議論したい。</p>
16:00～16:15	休憩
16:15～17:25 講演 60 分 Q&A 10 分	<b>[3] 学習履歴を用いた学習行動量の可視化の取り組み</b> <b>- 横浜国立大学における日常的な学生支援 -</b> <b>徐 浩源 (横浜国立大学)</b> <p>横浜国立大学は、授業支援システム(ラーニングマネジメントシステム:LMS)を導入して教員の授業活動及び学生の学習活動の支援を行っている。そこでシステムの中で自然発生した利用者の日常的な活動履歴が記録されているため、これらの利用記録と学習履歴のデータを分析することにより、学生の学習行動量を見ることが可能だと考える。</p> <p>本報告では本学における授業支援システムにある利用記録の解析と可視化の試みについて説明を行う。また可視化により、授業担当教員が学生の集団または個別の学習行動量と学習状況を把握できること、並びに学生が自分の学習状況などを確認できることに関する富士通との研究結果を紹介する。</p>
17:25～17:30	閉会あいさつ
17:30～17:40	休憩 (ニュースレター編集会議・講演者/企画委員)
18:30～20:30	<b>懇談会 (会費 ¥500)</b> <b>テーマ「ライフログの教育活用」</b> ※ 当日用意するお題に基づき、ワールドカフェ的に議論いたします。

## 開催趣旨

本年度の分科会では「学生をICTでどう支援していくか？」を年間のテーマとして取り上げている。第1回会合は、「日常的な学生支援」という視点からICカードを活用した先進的な取り組みについての2件のご講演をいただいた。さらに「知的能力の可視化WG」の成果報告を行うとともに、分科会参加者の全員参加の”ワールド・カフェ”を実施し、議論を深めた。第2回会合は、「非常時を含めた学生支援」という視点から、3件ご講演いただく。

まず最初に、大規模かつ多様な組織である大学における安否確認システムを、通常時から緊急時にまたがる各種サービスを統合的に扱うための「一斉通報通知・確認サービスフレームワーク」と捉え、大学間での共同開発・共同運用に関する活動をされている京都大学の梶田先生にご講演いただく。2件目は、本年4月カナダのヴァンクーバーで開催されたThe 2nd LAK (Learning Analytics and Knowledge) 2012の報告を中心に、ライフログの教育活用という視点で、海外での動向について、広島大学の安武先生にご講演いただく。今後、膨大な学習履歴ログ・データをどのように活用するかは、教育機関にとって喫緊の課題であり、今後の展開に特に関心の集まる分野の一つである。3件目は、横浜国立大学におけるLMSによる教員の授業活動及び学生の学習活動の支援について、同大学の徐先生にご講演いただく。具体的には、利用者の日常的な利用記録と学習履歴のデータを分析することにより、学生の学習行動量の把握を行っておられ、学生へのフィードバック等に活用されている状況をご報告いただく。

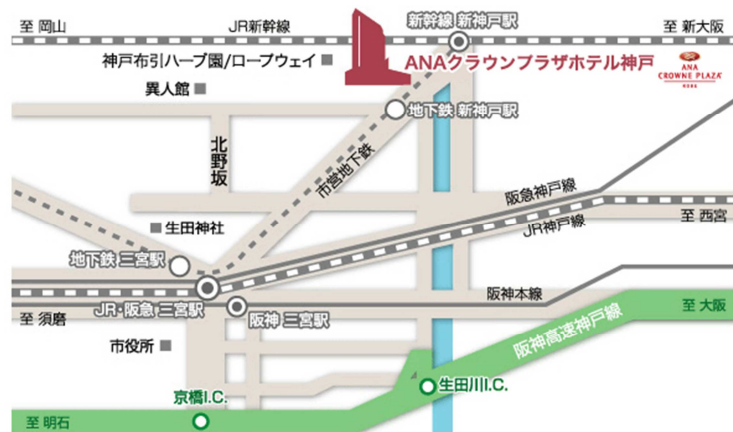
第2回分科会恒例の「懇談会」では、これまでも参加者全員による議論がなされてきたが、今回は第1回分科会につづき「ライフログの教育活用（仮題）」をテーマとしたワールド・カフェを開催予定である。講演内容を踏まえ、参加者全員が主体的に議論を組み立てる形で議論を深める機会にすべく鋭意準備を進めている。午後1時半から夕刻までと長丁場となるが、ぜひとも関係の皆様への多くの参加を得、議論を深める機会としたい。

## アクセス

### ANAクラウンプラザホテル神戸

●所在地：〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目  
TEL:078-291-1121(代) FAX:078-291-1151

●アクセス：山陽新幹線・神戸市営地下鉄「新神戸駅」直結  
三宮(JR・阪神・阪急)より市営地下鉄でひと駅  
※関西国際空港より三宮まで：空港リムジンバスで70分  
※神戸空港より三宮までポートライナー18分



## ご参加について

- 参加対象：SS研、IS研、CS研会員の方ならどなたでもご参加いただけます。
- 参加費：無料です。ただし、懇談会については会費¥500を申し受けます。
- 定員：60名(予定)
- 服装：堅苦しくない雰囲気での議論できるように、くつろいだ服装でご参加ください。
- その他：科学技術計算分科会(10月24日)と同時/平行開催、合同分科会(10月25日-26日)と連続開催です。

## 詳細・お申し込み

SS研 Web サイトからお申し込み下さい。

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会 (SS研) 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター  
富士通(株) カスタマーリレーション部内 (SS研)  
TEL: 03-6252-2582(直通) Email: office@sskn.gr.jp  
URL <http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>